

令和4年度 学校園評価(学校関係者評価)シート

(様式2)

学校名 加古川市立若宮小学校

1 学校教育目標 すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成 一進んで学ぶ子・仲よく助け合う子・最後までやりぬく子・元気がんばる子

2 学校基本方針
 ①主体的に生きる力を育てる教育活動の実践
 ②心豊かな児童の育成
 ③自主性、根気強さ、自立心の育成
 ④自らきたえる、たくましい心身の育成
 ⑤信頼される教師としての資質向上
 ⑥家庭、地域との連携

3 志向する学校運営
 ①児童にとって ・学校は「未来を生きる礎を学ぶ場」であること
 ②保護者にとって ・学校は「安全・安心な信頼できる場」であること
 ③教職員にとって ・学校は「働きがいがあり協働の気風のある場」であること
 ④地域にとって ・学校は「まちづくりの拠点となる場」であること

評価基準
 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

※評価項目を評価願います。

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ(学校関係者評価)	達成状況
基礎的、基本的な内容の 確実な定着	・繰り返し学習やドリル学習などの学習の時間を確保する。 ・家庭学習の充実、授業の振り返りの充実により学習内容の定着を図る。	A	・隙間時間などを有効活用し、Chromebookを活用したドリル演習の機会や時間を確保することができた。 ・授業改善を重ね、さらに授業の振り返りや学習内容の定着の充実を図る。	授業参観で、児童がChromebookを慣れた様子で使いこなしていた。さらに効果的なChromebookの活用と、基礎学力定着に向けた取り組みを期待する。	A
「生きる力」を育む総合的な学習の時間の充実	・SDGsの視点で年間カリキュラムを見直し、児童の体験活動の充実を図る。	B	・外部の専門家と連携し、児童の体験活動を充実させることができた。 ・学年の重点目標やSDGsの視点を十分把握するとともに、児童自身がSDGsのめあてを知って、進んで学びに向かうようにする。	年間、各学年が様々な体験活動を通して、子どもたちが地域に根差した経験をしていた。その視点をSDGsと関連付け、より専門的に学んでいくことを期待する。	A
心を育てる人権教育の推進	・わかみや人権週間などの取組も活用し、お互いを認め合う温かい集団づくりに努める。	A	・日常の授業や生活を大切に、日々の児童の実態に即した指導を心がけた。 ・「いいところ見つけ」や「ふわふわことば」を大切にするなど、多様性を認め合える、居心地のよい集団づくりに努める。	廊下をすれ違う子どもたちの様子がとても落ち着いていた。わかみやっ子の人懐かしい優しい雰囲気も伝承しながらも、人前でしっかりと自分の意見を主張できる子の育成を期待する。	A
自主的実践的な態度を育てる特別活動の推進	・児童会が主体となって、全校のスローガンを決め、年間を通して明るい学校づくりに努める。 ・進んで係活動や委員会活動に取り組む。	B	・常時活動の充実に加え、よりよい学級・学校や社会にするための取組も工夫を行う。	コロナが落ち着いてきたこともあり、新年度は子ども主体の活動や異学年交流ができるよう、高学年を筆頭に実践的な活動を期待する。	A
たくましく生きぬく基礎体力づくり	・年間を通して、体力向上の取組を継続する。 ・進んで駆け足練習や縄跳び練習に取り組む。	A	・計画的に駆け足練習や縄跳び練習を行うことができた。業間休みや昼休み時間にも、進んで運動に取り組むように工夫する。	なわとび検定などで子どものやる気を引き出していた。今後マスクが非着用となり、接触の制限等も緩和されることも踏まえながら、運動を推進していくよう期待する。	A
専門性と実践的指導力の向上	・校内研究授業を計画し、相互に授業研究する体制をつくる。 ・Chromebookの有効活用法について、日常的に情報交流し、OJTにより資質を高め合う。	A	・年度当初に計画を立てることができ、外部講師の指導を年間を通して受けることができた。算数以外の教科でも研究を進める。	年間を通して全ての教師が校内研究授業をされ、研究を推進し、成果を上げていた。新年度は、その成果を活かし、他教科等でもChromebookの活用も含め、推進していくことを期待する。	A
学校教育への参加・啓発	・常に新しい学校情報を発信し、児童の様子や学校からのお知らせを伝え続ける。 ・コロナ対策を行い、保護者や地域の方々に学校にきていただけるように工夫する。 ・シニアクラブと連携して、1年生の昔あそび、5年生のしめ縄づくり体験などを行う。	A	・人数制限をしながらも、保護者や地域の方々に直接、児童の様子を見ていただくことができた。 ・HPやブログで最新の学校の様子を伝え続けることができた。 ・全校児童と保護者や地域の方々が集える機会を工夫する。	学校の情報を日々発信し、保護者に学校の様子が分かるような配慮がなされている。新年度は、様々な形で保護者や地域の方々が来校できるような機会を増やしていくことを期待する。	A